

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報  
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft  
NO 10  
2020・6・8

1 連邦食料・農業省：強力な景気推進力としての農林政策の実施  
ー畜舎の改築・森林干ばつ対策・農村のデジタル化ー(2020・6・4)

連邦大臣クレックナーは連立政権委員会において、革新と投資のための強力なシグナルを発した。この委員会は、目下のドイツにおける景気蘇生のための政策パッケージを決定した。その中に家畜福祉の方針に基づく畜舎の改築、森林状況の安定化と農村地域でのネットワーク強化が含まれる。

連邦大臣の提案で、3 億ユーロ（約 360 億円）の投資奨励プログラムが開始される。2020 年と 2021 年における、家畜の福祉に関わる良好な飼育条件の円滑な実施のための畜舎改築である。このことはその地域における農業経営の現地存立だけでなく、加えて家畜の福祉を奨励し、家畜飼育者により多くの家畜福祉のための社会的期待に合致した展望が与えられる。

この投資は資本の拡大と結びつき、例えばいわゆる豚房に関わる 2019 年判決を受けて、現代に即した実行を支援する。畜舎改築奨励のために、投資決定のための信頼ある基礎として、各々の家畜飼育に対する適切かつ異なる区分の最低要請要件が有効となる。

さらに森林所有者もこの支援に参加できる。2 年間の干ばつ年の後、2020 年もまた強い乾燥が始まっている。同時にドイツにおける森林被害が継続される。木材価格は、著しく低下している（部分的にはコロナパンデミックのためにも）。そのため、連邦政府は持続的な森林管理と、そしてその維持のために、さらに近代的な管理機械と器具に対する投資支援、林業におけるデジタル化の奨励を含めて、7 億ユーロ（約 840 億円）を準備している。これと並んで建築材としての木材の利用拡大を含めた、現代的な木材業の奨励もまた実施する。

農村地域は、著しく加速された 5G ー拡大を通じて、デジタル化の波を受けている。2050 年までに広範な 5G ーネットシステムが、全ドイツに構築される。そのため、連邦の新しいモバイル通信（移動体通信）構造インフラ社会のために、50 億ユーロ（約 6 000 億円）が準備されている。同時に近いうちにモバイル通信経営者が、どのような分野において強化するか説明する。

この資金を通じてまだ残っている空白の場への設置を可能にする。これは農場だけでなく、村々の全ての世帯にも役立つ。これは農村においても、都市と同価値な生活条件の実現を可能にする。そして例えば、適切な農薬使用と施肥を管理し資源を大切にするため、畑で人工知能と精密農業の活用を可能にする。

クレックナー大臣：これは最も良い意味における、地域的な持続性のための強いシグナルである。経済的、生態系的そして福祉的な社会の期待は、農林業と農村地域のための約束と具体的な支援でもって裏打ちする。

## 2 クレックナー大臣：麻酔使用で仔豚の去勢手術のための政策を実施 ー麻酔のための器具及び家畜飼育者の麻酔使用認可ー（2020・6・4）

連邦食料・農業大臣クレックナーは、昨日仔豚の去勢をテーマに豚飼育者、流通業者と円卓会議で話し合った。この円卓会議は、ビデオ会議の形式で開催された。以下の情報をプレスに提供する。

### 仔豚の去勢に関する円卓会議：

連邦大臣クレックナー：仔豚去勢に関する法律施行の変更はない。仔豚の痛みを無くすことが重要である。痛みを和らげることは、家畜保護の理由から、法によって排除されることはない。責任は農場の側にあり、今ある選択肢を活用すべきである。連邦大臣は、奨励のための長い申請期間を示している。2018 年の議会終了後、麻酔での仔豚去勢の移行期間を、2020 年まで延長を決定した。連邦大臣は非常に明確にしている。

つまり、移行期間のさらなる延長はないことを。彼女は、昨日の第 4 回円卓会議に際して、参加者にこのことを強調した。ここには交渉の余地はなく、延長について議会においても多数となっていない。麻酔施用は確定している。連邦農業省は連邦議会の決定以降、時間を使いそして農業者のために、必要なことを実現してきた。

クレックナー大臣は専門分野での話し合いにおいて、麻酔無しの仔豚去勢に代わって、法的に適合している3つの選択肢を提供している。

- 1 若い肥育豚（雄臭の発生前にと殺）
- 2 雄豚の匂いを抑えるワクチンの投与
- 3 全身麻酔の下での去勢

農場は麻酔無しでの去勢に代わって、今ある選択肢の利用が要請されている。

麻酔無しの仔豚去勢禁止の発効までに、なお半分以上残っている。現場において選択肢を効果的に用いるために、まだ残っている期間内に家畜飼育者、肉業者そして流通の中に責任が存在する。

連邦政府は、多様な方法の中で麻酔無しでの仔豚去勢から、今ある選択肢の導入を支援する。

#### 個別的に：

- 1 仔豚去勢の麻酔導入のために動物用薬剤の認可
  - 一 仔豚の去勢に際しての麻酔導入のために、効果物質イソフルラン（Isofluran 麻酔薬）の入った動物用薬剤法上の認可  
連邦大臣クレックナーは、移行期間延長のための立法者の決定の後、専門家を通じて麻酔剤導入規定を提出した。そして農業者または専門家によるイソフルランの入った動物薬剤の麻酔剤導入が可能になった。
- 2 麻酔用器具に関する技術状況
  - 一 2020年4月28日に3つの異なる製造者の麻酔器具を、DLG（訳注・ドイツ農業協会）が認可した。
  - 一 さらに2つの器具がDLG一試験で認可され、そして試験結果の条件のもとに、多分6月に認可されるだろう。
  - 一 専門知識に基づいて認可された器具の製造者は、いずれこの状況の中で短期間にドイツ市場で供給できる。
- 3 麻酔器具の購入に際して経費の支援
  - 一 麻酔器具の購入奨励のための連邦財政が、2020年に関して2000万ユーロ（約24億円）活用できる。
  - 一 これまで約2500件の最初の申請が受理され、そして審査されている（2020年5月26日）。最初の申請でもって、基本的に奨励の必要条件が審査され、そして承認された。

- 一 最初の申請期限は、2020年6月30日に終了する。また、母豚飼育者は2020年8月31日までの期間である。つまり、第2回目の申請段階において、入手した麻酔器具（証明済みの）奨励申込みを行う。
- 一 奨励金額は、購入額全体の60%までで、そして各母豚飼育者に対して5000ユーロ（約60万円）まで助成する。
  
- 一 母豚飼育者は、この器具について最大の奨励を得ることができる。
- 一 加えて連邦農業大臣は、麻酔器具投資のための申請期限の延長を公にした。

#### 4 仔豚麻酔に係る専門知識規則

- 一 仔豚麻酔専門知識規則は、2020年1月から有効である。同時に仔豚の去勢に際して、イソフルラン麻酔を農業者自ら実施できる可能性の礎石がおかれた。

#### 5 研修会の教材

- 一 イソフルランによる麻酔導入のための専門知識証明を取得するための研修会について、仔豚麻酔専門知識証明規則に沿って、研修教材が作成されている。
- 一 この研修会教材は2月以来、利用できるように公表している。
- 一 農業者のためにあらゆる選択肢の情報資材が、「連邦情報センター農業」によって作成されている。

#### 6 研修会の成果

- 一 研修会は仔豚麻酔専門知識規則の発効以来、開催が可能である。
- 一 各州における最初の研修施設は、2020年5月以来研修会を開催している。
- 一 幾つかの研修施設は、オンライン研修を提供している。

#### 7 選択可能な方法について消費者への視点に合わせた啓蒙キャンペーン実施

- 一 麻酔無しでの仔豚の去勢とそれに代わる選択的方法のテーマに関して、消費者へ情報を提供する。
- 一 これに加えて麻酔無しでの去勢の選択肢に関して、付属パンフレットを作成している。
- 一 情報については、インターネットのホームページで補完される。

### いわゆる「第4の道」は現在の科学的な知見によって法的合一性がない

連邦大臣クレクナーは、局部麻酔（イソフルランによる全身麻酔に対して）が現在の科学的知見によって、効果的に痛みを無くすことにならないことを、今一度明確にした。これはある程度成長した仔豚に対して、連邦省から奨励されている科学的研究の中間結果が示している。痛みの効果的な除去は、2021年1月1日から強制的な法条件である。動物保護法の停止を背景とした例外規定が、部分的に要請される（科学的な研究が終了するまで、獣医による局部麻酔の適用）。

### 3 連邦農業省の呼びかけ：我々の食料の収穫—国内協力者が支援

—コロナ危機で職を失った人々が応援を— (2020・6・1)

我々の食料を誰が食卓に運んでくれるのか—我々は明確にしたい。農業における救いの手は、しばしば不明確である。満杯の商品棚そして変化に富んだ料理プランは、我々にとって全て当然のことである。しかし、この1年間播種から収穫まで、どれだけの労働力が投入されてきたのか。これによって生産された農産物は人々に見えていない。コロナ危機はそれを明らかにした。

我々の収穫物と我々の食は当然のことではなく、農業が生き生きとし、そして労働能力を保つために、多くのことを必要としている。ドイツの農業者だけで収穫シーズンに、約30万人の収穫協力者に依存している。この協力の手無しで収穫不能の恐れを招き、我々の料理プランを貧弱にさせる。この支援の手無しで農業者を始め多くの「生存」が奪われる。多くの人々はコロナ危機において、これまでよりもより強く農業との関わりを有している。

つまり、地元の生産と産物に対する関心を増している。青少年と若い成人が、目下47%がコロナ危機の前よりも、重要としている。そして10000人が、自ら農業に協力したいとしている。ポータルサイト [Portal daslandhilft.de](https://portal.daslandhilft.de) を通じて、例えばコロナのため本来の職業において、強制的な休止と断念しなければならないレストラン従業員、店員、学生そして他の人々が、協力者として参加を申し込んでいる。

これを通じてある一定の人々は、あらゆる面で農業労働が重要であることを始めて体験する。協力者は骨の折れる辛い、汚れた農作業を体験しながら、同時に多くの協力者が自然の中での労働に、満たされることを見出す。

## 農業経営における人々の日常のそして自由な直接的な印象

連邦農業省は写真、ドキュメンタリーでもって、我々の食料の中に組み入れられた、国民の協力者と農業者との労働の出会いを可視化する。連邦農業者は、来週これを Website [bmel.de](http://bmel.de)、インスタグラム、ツイッターで公表する。そして農業経営における日常の中で、国内協力者の直接的な印象を情報提供する。

この撮影は国民の関心を呼び覚まし、知識を伝えそして我々の重要な経済部門の一部について、理解を深めるように尽力する。

連邦食料・農業省は、これでもって農業者と協力者相互の関係発展に寄与する。そうでないと、農業に対する非難、ステレオタイプの予断そして月並みな議論が形成される。連邦省は「#我々の収穫・我々の食」のタイトルのもとに、農業経営に対する支援の手のあらましを紹介する。写真、ポートレートそして報告は、来週 [bmel.de](http://bmel.de) と Social-Media-Kanälen ルートで見ることができる。

### 4 ヨーロッパ農業大臣がビデオ会議で意見交換を

一食料確保がヨーロッパ農業政策の中で大きな役割を一 (2020・6・8)

EU 一農業大臣は、「農場から食卓まで」と「生物多様性の戦略」について、意見交換を行った。環境一気象政策の中で農産物の量的生産低下の目標は、適切な刺激策と政策手段並びに十分な資金調達が必要である。ヨーロッパの同僚大臣とのビデオ会議において、クレックナー大臣はヨーロッパ農業政策の新しい歩みについて、意見を交わした。

この会議での評価において、大臣は明確にしている。ヨーロッパ共同農業政策 (GAP) 並びにグリーンデール戦略 (訳注・2050 年温室効果ガス排出ゼロのための戦略) は、単独でない。ヨーロッパ委員会の作業文書は、GAP にふさわしい領域に記載されている。つまり、ヨーロッパグリーンデール戦略の「意欲的な野心」のもとに各政策が実施され得る。

この文書は、特に GAP の中で環境一気象保護政策のために、最低限の予算決定後、連邦大臣は要請している。このことは全ての加盟国に有効である。環境基準の引き下げと競争の歪みを回避するために。

連邦大臣クレックナー：環境一気象保護は、ヨーロッパ農業に関して経済的に担い得るものでなければならない。科学的な基礎と政策の結果評価もまた、重要である。

環境一気象対策のための農業生産量低下は、これを達成するための手段と政策的な刺激を伴う。ヨーロッパ以外の国へ農業生産が、移動することを回避すべきである。我々は、ヨーロッパにおいて環境一または動物保護水準に、影響を与えることは回避すべきである。農業者は、自らの労働から生きることができねばならない。ここでは特に小規模経営も。

我々は広範かつ地域的な生産を維持するために、この道を下りることはしない。EU一委員会の提案は、7 500 億ユーロ（約 90 兆円）のヨーロッパ経済で、コロナ一危機への重大な基礎を建て直す。農業上の EU一課題への対応のために、2018 年からの本来プランに対して、数年間の財政枠（2021 年から 2027 年までの）が大きく拡大したことを、大臣は歓迎した。このことは正しい方向に進んでいると評価した。

2020・6・8 訳 青森中央学院大学 中川 一徹
---------------------------------